

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

34. ナワシロイチゴ（バラ科キイチゴ属）

Rubus parvifolius L.

2015年6月

丘陵地やため池堤体によく見られ、ときに道傍でも生育する落葉小低木です。茎はやや匍匐し、立ち上がり、短い枝を出します。葉は花がつく枝には3小葉、徒長枝は5小葉が付きまします。頂小葉はひし状円形～広倒卵形で円頭、長さも幅も3～5cm、ときに3裂し、粗い鋸歯があります。裏面は灰白色で、細毛におおわれます。花は5～7月で、短い枝に総状または散房状花序となります。花軸は密に細毛があり、刺もつけます。花弁は紅紫色で倒卵形、長さ5～7mm、がく裂片とほぼ同長で、開かず目立ちません。果実は球形で赤く熟し、食べることができます。和名は苗代のころに食べごろの赤い果実をつけるところから来ています。分布は北海道、本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、中国で、姫路市においても身近に広く生育している植物です。



ナワシロイチゴ



開花状況



果実